

大阪国語教育アゼンブリー2014

〈開催要項〉

——対話で紡ぐことばの学び——

大阪国語教育アゼンブリーは、ことばの教育に関心をもつ人たちが、広く研鑽しあう集会として、昨年度初めて開催いたしました。当日は、各方面から110名のご参加をいただき、活発な討議が行われました。

今年度の「大阪国語教育アゼンブリー2014」は、〈対話〉を中心テーマに据えたいと思います。お互いを認め合い、ことばを発し、そのことばを受けとめて相手がことばを返す。〈対話〉には、ことばの学びの重要な要素が含まれています。また、思考を深めるためには、他者との対話、テキストとの対話は欠かすことができません。〈対話〉という往復運動を通して、人は現代生活に生きることばを自分のものにして成長し、豊かに生きる契機を獲得する。——しかし、現在の私たちにほんとうの〈対話〉は可能なのでしょうか？

全体会は「〈対話〉はどんな力を育てるか」をテーマに、作家津村記久子氏の作品を手がかりとして、異なる立場の方々に〈対話〉についてのご経験やお考えをお話いただき、〈対話〉の可能性を探る企画にしたいと思います。登壇いただく方々のご発表、意見交換をもとに、フロアからのご意見もお伺いし、全体会自体が豊かな〈対話〉の会になるように進めることができればと思います。

分科会は「〈対話〉が生きる学びの発見」をテーマに、6つの分科会を計画しています。ことばの教育のこれまでの蓄積との〈対話〉、豊かな可能性を持つ教材との〈対話〉、国語の授業での〈対話〉の学習の取り組みについての意見交換など、全体会を受けて、より具体的、实际的に〈対話〉の学びについて話し合うことができるよう企画しました。分科会後は再び全体で集まり、分科会での成果を共有します。

今年度も「自主的」「本質を問う」「参加者はことばの教育に関わるすべての人」「若い先生方にやさしく」などのコンセプトを継続したいと考えています。教員に限らず、広くお集まりいただける会です。ぜひ、ご参加ください。

■日 時 平成26年8月2日(土) 13:00～17:00

■会 場 大阪府立今宮高等学校 多目的ホール・会議室他

〒556-0013 大阪市浪速区戎本町2-7-39

(地下鉄大国町駅より南300m、JR・南海新今宮駅より北西300m)

13:00～ 13:30	受付
13:30～ 13:45	開会・概要説明 小山秀樹(今宮高校)
13:45～ 15:00	全体会 問題提起 「〈対話〉はどんな力を育てるか」
パネラー	津田 仁(大阪府教育委員会教育監) 津村記久子(作家) 林出勝代(河南高校)
コーディネーター	湯峯 裕(本会理事長 春日丘高校校長)
▼「ポトスライムの舟」「十二月の窓辺」(講談社文庫所収)など、津村記久子氏の作品を手がかりにさまざまな立場の方々に話していただき、〈対話〉の可能性や〈対話〉が育てる力を探ります。	

(裏面に続きます)

1500～1520	休憩・移動
1520～1620	分科会 〈対話〉が生きる学びの発見
第1分科会	〈国語教育の蓄積との対話〉 大村はま氏ら先人から学んだこと —誰もが可能な授業実践の開発へ向けて— 舟橋秀晃 (大和大学准教授) 司会進行 永田里美 (西寝屋川高校)
▼教科書教材の文章を単に読み取っていただけでは、生徒自身の「考えの形成」は困難です。とはいえ揚げ足を取る読み方も困ります。みんなで議論し合意をつくる民主社会にふさわしい言葉の力はどうすれば養えるでしょうか。大村はま氏ら先人のすぐれた実践から私が学び得た、誰でもできる実践上のポイントを、実践例を通して報告します。	
第2分科会	〈評論との対話〉 三つのアイテムですべての段落を読み解かせる —教師が解説することはなるべくがまんします— 吉澤久良 (高津高校・指導教諭) 司会進行 水山知春 (大手前高校)
「ファッションという〈力〉」(柏木博 筑摩書房『精選現代文 改訂版』所収)をとりあげます。今年度、『三つのアイテム ①繰り返される語 ②接続語 ③二項対立』だけですべての段落を読み解かせる』というチャレンジをしてみました。参加される先生方に生徒役になっていただき、ディベート的手法を取り入れて授業展開を経験していただくと思っています。	
第3分科会	〈小説との対話〉 思考の入り口から対話へ 鈴木 寿 (箕面高校・指導教諭) 司会進行 河田良子 (大阪教育大学附属高校)
▼学習者の実態と無関係に授業は成立しません。多様な学習者を前に思考の入り口をどう探していくのか。思考の入り口から対話へ、対話から小説の読みへ、その方法を考えてみます。	
第4分科会	〈古典との対話〉 心はそれほど変わっていないと伝えたい 岡田一心 (長尾高校・指導教諭) 司会進行 音無幸子 (懐風館高校)
▼お世辞にも古典の素養が豊かであるとは言い難い教師と、古典はあんまり…という生徒の組み合わせでも何とかあった。それどころか、ちょっと心揺さぶられることもある授業のことをお話しします。	
第5分科会	〈ライトノベルとの対話〉 ライトノベルは教材になるか 蝉川夏哉 (ライトノベル作家) 司会進行 御手洗靖大 (同志社大学学生)
▼「山月記」をライトノベルとして書き直したら?—よく聞けれど、ライトノベルって何なの? 教科書に載る小説とライトノベルはどう違うのか。ライトノベルは読書指導や国語教育の対象となるのか。現役のライトノベル作家と考えます。	
第6分科会	〈対話を含む表現活動〉 さまざまな聞き書きから —一人との対話を作品集に— 田中啓介 (岸和田高校) 司会進行 西岡宏祐 (清水谷高校)
▼国語総合や国語表現の教科書に「聞き書き(インタビュー)をしてみよう」というページをよく見かけますが、実際どういう授業が可能でしょうか。私の実践例を紹介しつつ、聞き書きの意義や記事のまとめ方について一緒に考えたいと思います。(実践例)・学校周辺の施設や店の取材・先生方の「17歳のころ」・クラスメイトの紹介文・授業参観に来た先生に逆取材 など。	
1620～1700	全体会(分科会報告・連絡)・閉会

- 参加費 無料
- 主催 大阪府立今宮高等学校 大阪府高等学校国語研究会
- 協力 大阪府教育委員会(依頼中)
- お申込み方法 今宮高校 HP か別紙の FAX 用紙でお申し込みください。(〆切 7/31)
- お問い合わせ 大阪府立今宮高等学校 TEL 06-6641-2612 (FAX 06-6645-7608)
国語科 小山秀樹まで